直小学校　学校評価だより（中間報告）　令和2年8月31日

【教育目標】未来につながる力を身につけた、たくましい児童の育成
《令和元年度後期との比較》

本校では、年２回の自己評価を行っています。１回目は８月（中間評価）、２回目は１月（最終評価）です。自己評価の資料として、７月と１２月にご協力いただく児童アンケートや保護者アンケートなどを参考にしています。また、この自己評価は、客観性を高めるために、学外の関係者評価委員によって評価していただいています。この評価を学校評価と呼んでいます。
本たよりでは、今年度の中間評価結果についてご報告いたします。

＜視点１＞【未来につながる学力を身につけた児童生徒の育成】

	アンケート結果（赤字…着目した数値）			自己評価	成果(○)・課題(▲)及び分析(⇒)
児童	授業では、聞く人に伝わるように話している。	94%	↘	B	○児童…授業で話し方・聞き方を意識している。 ▲教師…話し方・聞き方について具体的指導に改善の余地がある。 ⇒児童の実態に沿った話し方・聞き方の具体的指導を共通実践する必要がある。
教員	児童が、聞く人に伝わるような話し方ができるように、具体的に指導している。	88%	↑		
児童	授業では、友だちの考えを最後まで聞いている。	93%	→		
教員	児童が、友だちの話を最後まで聞くことができるよう、具体的に指導している。	75%	→		
児童	授業（勉強）の内容は、よく分かる。	93%	→		○児童…授業（勉強）の内容は、よく分かると考えている。 ▲保護者…児童が授業内容をよく分かると感じている割合が下がっている。(−10%) ⇒臨時休校があり、子どもの学力について不安に感じる保護者がいる。
保護者	お子さんは、授業(勉強)の内容がよくわかると感じている。	88%	↓		
教員	直小スタンダードを踏まえ、学力向上プランの取組をすすめている。	88%	／		
教員	見て分かりやすい授業となるよう、ICT機器(モニター・タブレット等)を積極的に活用している。	100%	／		
児童	宿題は忘れずに取り組んでいる。	91%	→		○児童・保護者…家庭学習の取組に向上が見られる。 ○教員…家庭学習の量や質を改善する取組をすすめている。
保護者	お子さんは、毎日家庭学習(宿題)に取り組んでいる。	89%	↗		
教員	家庭学習の量や質が改善するよう指導している。	86%	↑		
児童	学校や家で、本を読んでいる。 （1週間に　A:4日以上　B:3日　C:2日　D:0～1日）	74%	／		○児童…約3／4は読書の習慣ができている。
保護者	お子さんは、家で読書をしている。 （1週間に　A:3日以上　B:2日　C:1日　D:0日）	48%	→		
教員	児童の読書の量や質が向上するよう指導している。	71%	↓		

【課題①】話し方・聞き方の向上
＜改善策＞
○「いいめとみみ」の活用
→全校の取組・学年毎の取組の重点化・具体化・視覚化

【課題②】学力向上
＜改善策＞
○直小スタンダードの確実な実施　　○補充学習の充実

≪学校関係者評価委員会より≫　（・参加者のご質問、→学校の回答、⇒参加者のご意見）
○学力向上
・授業時数は足りそうか。
→今後予定通り実施できれば足りる。１学期末現在で、１学期分の学習内容が終わっていないのは、ごくわずかの学年・教科のみである。
⇒見通しを持って指導されているのはとてもよいことである。
・一部の学年の学力が気になる。
→直小スタンダードに沿って計画的な指導を確実にすすめていきたい。
⇒子どもを比較せず、その子の成長を見守っていくことが大切ではないか。
・マスクをつけての授業は、互いに表情が見えにくく授業のわかりにくさにもつながっていないか。
→当初はそんなことも感じたが、慣れたら大丈夫である。

＜視点２＞【心豊かに学ぶ、たくましい児童生徒の育成】

	アンケート結果（赤字…着目した数値）			自己評価	成果(○)・課題(▲)及び分析(⇒)
児童	地域の人に、自分からすすんであいさつをしている。	93%	↘	B	○児童…ほとんどの児童はすすんで挨拶している。 ○保護者…児童はすすんで挨拶していると感じている。
保護者	お子さんは、すすんで挨拶ができている。	87%	↗		
教員	児童が、自分からすすんで挨拶をするよう指導している。	89%	→		
児童	校歌や全校合唱を、体全体で歌っている。	89%	→		
教員	体全体で歌うよさを指導している。	88%	／		
児童	困っている友達がいたら助けてあげようとしている。	85%	／		○保護者…学校は親切・思いやりの心を育てようとしていると感じている。また、児童は、「楽しそうに学校に行っている」と感じている。
保護者	学校は、親切・思いやりの心を育てようとしている。	96%	／		
児童	学校のきまりを守って、生活している。	91%	／		
保護者	お子さんは、「楽しそうに学校に行っている」と思う。	93%	→		
教員	児童が学校のきまりを守り、安全に生活できるよう指導している。	89%	／		
保護者	学校は、いじめのない学校づくりに積極的に取り組んでいると思う。	91%	／		○保護者…先生は、子ども達のことをよく理解しようとしていると感じている。 ▲個別の支援を必要とする児童に対する組織的対応が十分でない。 ⇒専門相談員等からのアドバイスが具体的指導に十分生かされていないのではないか。
教員	児童同士のよりよい人間関係づくり(いじめの未然防止)に努めている。	100%	→		
教員	個別の支援を必要とする児童に対し、組織的対応となるよう努めている。	88%	↓		
児童	先生はがんばったことをほめたり、認めたりしてくれる。	94%	／		
保護者	先生は、子ども達のことをよく理解しようとしている。	93%	→		
教員	日頃の児童のがんばりをほめたり、認めたりするよう努めている。	100%	／		

【課題③】個別の支援
＜改善策＞
○具体的な指導内容の共有と実践

≪学校関係者評価委員会より≫　（・参加者のご質問、→学校の回答、⇒参加者のご意見）
○個別の支援
・その児童に見合った必要な支援を行ってほしい。
→２学期から指導内容を具体にして実践している。今後も改善しながら取組をすすめていきたい。

＜視点３＞【自らの健康と安全に積極的に取り組む児童生徒の育成】

	アンケート結果（赤字…着目した数値）			自己評価	成果(○)・課題(▲)及び分析(⇒)
児童	すすんで運動に取り組んでいる。	93%	／	C	○児童…体を動かすことに積極的である。また、昨年度の課題であった長座体前屈の記録も向上している。
教員	運動するよさを指導している。	100%	／		
児童	決められた時こくに、寝ている。	76%	／		○保護者…8割の保護者は、児童が早寝・早起きをして、朝ごはんをしっかり食べていると感じている。
保護者	お子さんは、早寝・早起きをして、朝ごはんをしっかり食べている。	84%	⇨		
教員	規則正しく生活することのよさや必要性を指導している。	100%	／		
児童	家で、ゲームやパソコンは1日にどれくらい使っていますか。 (A:30分未満　B:30分～1時間未満　C:1～2時間未満　D:2時間以上)	59%	／		▲児童…ゲームやパソコンを1日1時間以上使っている児童は約4割いる。 ▲保護者…テレビやゲーム・パソコンを、家庭のきまりを守って使っている割合は3／4である。 ⇒児童自身が家庭のきまりを意識することができていない。また家庭のきまりの内容が明確でないなどが考えられる。
保護者	お子さんは、テレビやゲーム・パソコンを、家庭のきまりを守って使っている。	75%	／		
教員	家でのゲームやインターネットの適切な使い方について指導をしている。	63%	⬇		

【課題④】ネット利用の仕方

＜改善策＞

○家庭のきまりを考える機会　　○個別指導

≪学校関係者評価委員会より≫　（・参加者のご質問、→学校の回答、⇒参加者のご意見）

○ネット利用のきまり

・児童のネット使用時の集中力はすごい。

・ゲームやパソコンが身近にありすぎる環境になってしまった。

・ネット利用のルールは、言ってはいるが徹底できない。

→本校はネット利用についての家庭内のきまりがあるという児童の割合が低い。児童及び保護者での情報学習会を見直す機会としたい。

⇒家庭内で統一したルールを作ることが大切だ。

＜視点４＞【ふるさとの人・もの・ことを生かした心豊かな児童の育成】

	アンケート結果（赤字…着目した数値）			自己評価	成果(○)・課題(▲)及び分析(⇒)
児童	地域の人・もの・ことから、いろいろなことを学んでいる。	81%	／	B	○保護者…学校は地域と連携した体験活動にすすんで取り組んでいると感じている。 ▲児童…地域の人・もの・ことからの学びが十分でないと感じている。 ▲教員…まちの先生を活用できていない。 ⇒臨時休校後の対応として、学習をすすめることが優先され体験活動の取組が昨年度より少なくなっている。
保護者	学校は、地域と連携した体験活動にすすんで取り組んでいる。	98%	／		
教員	地域の方々との体験活動を通して感じた児童の思いを、授業で捉え直す指導を行っている。	86%	⬇		
児童	地域の行事には進んで参加している。	87%	／		
保護者	お子さんは、地域のよさや大切さを感じている。	95%	／		
教員	まちの先生を積極的に活用している。	57%	／		
保護者	学校ホームページやお便り等は、学校の様子や必要な情報が分かる内容になっている。	96%	⇨		○保護者…どちらの設問についても肯定的である。 ⇒ホームページについては、積極的な更新に努める。
保護者	学校は、保護者や地域の声を受け止め、誠実に対応している。	95%	⇨		

【課題⑤】地域体験活動

＜改善策＞

○計画的な実践　　○まちの先生の活用（学期に１回）

≪学校関係者評価委員会より≫　（・参観者のご質問、→学校の回答、⇒参加者のご意見）

○地域体験活動

・できることは協力する。地域のよさを知る児童を育ててほしい。

→本校にはたくさんのまちの先生方がおいでる。例年のように、まちの先生方を積極的に活用した計画的な取組をすすめていきたい。

＜視点５＞【業務の適正化】

	アンケート結果（赤字…着目した数値）			自己評価	成果(○)・課題(▲)及び分析(⇒)
教員	担当業務が効率的な取組となるよう改善に努めている。	78%	／	D	○時間外勤務平均時間は減少している。(-3時間…4～6月平均:R元との比較) ▲最終退校時刻、定時退校日を守り切れていない。 ⇒職員減により担当業務が増えている。 定時退校日等を見通した業務が不十分である。
	最終退校時刻や定時退校日を守っている。	78%	／		

【課題⑥】効率的な業務

＜改善策＞

○最終退校時刻(20時)を守る　　○月２回の定時退校日を守る

→そのための効率的な業務改善

≪学校関係者評価委員会より≫　（・参加者のご質問、→学校の回答、⇒参加者のご意見）

○効率的な業務

・最終退校時刻・定時退校日を決めて守る取組はとてもよい。

→全員が意識し、実際に守れるように取り組んでいきたい。

↗　５%以上増えている
⬆　１０%以上増えている
↘　５%以上減っている
⬇　１０%以上減っている
※令和元年度後期との比較

【学校評価の目的】

学校評価を行う目的は、第１に本校の教育活動や学校運営が適切に行われているかを評価し、学校として組織的・継続的な改善を図ること。第２に本校の結果を公表・説明して説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めることにあります。

今後もご協力をよろしくお願い致します。